

# 福知山市長選・市議補選の結果について

2024年6月10日 日本共産党中丹地区委員長・山内健

## 1、投票結果

### (1) 市長選

\*投票率 49.42% (前回比▲0.38)

\*各候補の得票

小瀧真里	7370	(24.71%)	民主市政の会支援
森山 賢	10042	(33.67%)	
当 大橋一夫	12415	(41.62%)	自民・公明・連合推薦

### (2) 市議補選

\*投票率 49.37%

\*各候補の得票

金澤栄子	9259	(32.80%)	日本共産党公認
土佐博幸	9421	(33.37%)	
当 水谷達也	9550	(33.83%)	

## 2、選挙結果についての評価の基本点

### (1) 市長選について

- ①今回の市長選は、コロナ後の社会のあり方、物価高騰のなかで市民の暮らしと営業どう守るか、人口減少と過疎化がすすむなかでどうやって地域を維持し発展させるか、新文化ホール計画など市民の声をよく聴き、どうやって市政に反映させるか、などが問われた。大橋一夫氏が当選したが、その得票は前回の大幅減票(▲7739)からさらに▲1339減票し、得票率も41.62%にとどまった。市民サービスを切り捨てる「全事業棚卸し」、地域を切り捨てる「公共施設マネジメント」などを通じた「行財政改革」を「実績」と強調したが、市民の信任を得たとは言えない。住民のいのちと暮らしを守る地方自治の原点に立ち返った自治体運営への転換が強く求められる。
- ②民主市政の会は、「3つの基本スローガン、6つの基本政策」を明らかにし、対話・アンケート運動と候補者選考を開始した。その過程で協議し、小瀧真里氏の政治姿勢と政策を評価し「支援」してたたかうことを決めた。評価の中心は、小瀧氏が(i)「現市政は全てにおいて市民との対話の感覚が違う」「市民同士や市との話し合いの場を設け、市長として参加する」と表明され、大橋市政の継続でなく、市民の声を良く聴き、市民に寄り添う市政にと訴えている点、(ii)新文化ホールの建設は、一旦立ち止まり見直すとされている点、(iii)「段階的な給食費無償化」と具体的に公約され、教育・子育て・若者・高齢者各世代の応援、ジェンダー平等など市民皆さんが生き生きと暮らせる市政とするとされている点、(iv)「三和町・夜久野町・大江町に十分目配りが出来ているとは思わない」とし、三和町・夜久野町・大江町のこれ以上の落ち込みをストッ

ブするとされている点、の4項目で、これらは「会」の「基本スローガン・政策」と共通し、これまでの市政の流れを転換し新しい流れをつくれると判断した。候補者として奮闘された小瀧真里さんに心から敬意を表します。

保守・市民派の候補者と政策内容を評価して「支援」する初めてのたたかいで模索と挑戦でしたが、「共闘」の力で福知山の政治を変える一歩となり、今後も市民との「共闘」が発展するよう力をつくしていく。

- ③新文化ホール計画を見直しの是非を問う住民投票を求める署名が8千筆を超えて集まり、3月末、大橋市長が「ゼロから見直す」と表明せざるを得ないところまで追い込んだことは、市民の力で政治を動かすことができる、という確信を市民のなかに広げ、今回の市長選・市議補選にも影響を与えた。
- ④今後も「会」が発表した「3つの基本スローガン、6つの基本政策」にもとづき、暮らし・いのちを守る要求を軸に、市政の中心問題・対決点を鮮明にしていく要求運動に引き続き粘りづよく取り組んでいく。特に子育て世代、若い世代の願いに応える活動を重視していく。

## (2) 市議補選について

- ①日本共産党・金澤栄子さんは9259票を獲得し大善戦・大健闘した。金澤さんが立候補を決意されたこと、たたかいの先頭に立って奮闘していただいたことに心から感謝します。金澤さんが得た得票は、2022参院での日本共産党の比例得票の(3190)の2.9倍、2023年4月の福知山市議選での党候補5人の得票合計(4598)の2倍で、この間、押し込まれたところから大きく押し返した。当選に至らず惜敗したとは言え、2018年府議補選で大槻富美子さんが獲得した9230票を上回るとともに、福知山での日本共産党候補の過去最高得票10995(1998年参院選での西山登紀子票)に次ぐ得票で、大いに確信にし、次のたたかいにつなげていこう。
- ②こうした得票を得た背景には、これまでの金澤さんの政治家としての実績とともに自民党の金権腐敗政治＝パーティー券を通じた企業・団体献金で政治を歪める、パーティー券の売り上げや政策活動費を通じての裏金づくりなど、自民党政治に対する怒りが国民のなかで大きく広がるなかで、日本共産党と金沢候補が「自民党政治を終わらせる」「自民党政治に審判を」と訴え、市民の怒りを結集したことがある。物価高騰が続くなか、暮らし応援、子育て世代応援の具体的政策として、給食無償化や子どもの医療費助成の拡充などを訴え、若い世代の共感を広げたことがある。さらに市政の意思決定の場に女性を増やすことがあらゆる課題の解決策になると、ジェンダー格差をなくしジェンダー平等社会の実現を訴えことで、党派を越えて支持を広げることにつながった。これらの訴えを引き続き強めていこう。
- ③かつてなかった大激戦のなかで、あと一歩、議席獲得に及ばなかったことは本当に悔しい思いです。日本共産党自身の実力をさらに強め激しい選挙戦に勝ち抜く自力を付けること、選挙戦での的確な情勢把握と対策、他、みなさんのご感想やご意見をお聴きしし、次のたたかいに生かしたい。

以上